

バンコク国際空港拡張事業 (I) (II) (III)

タイ



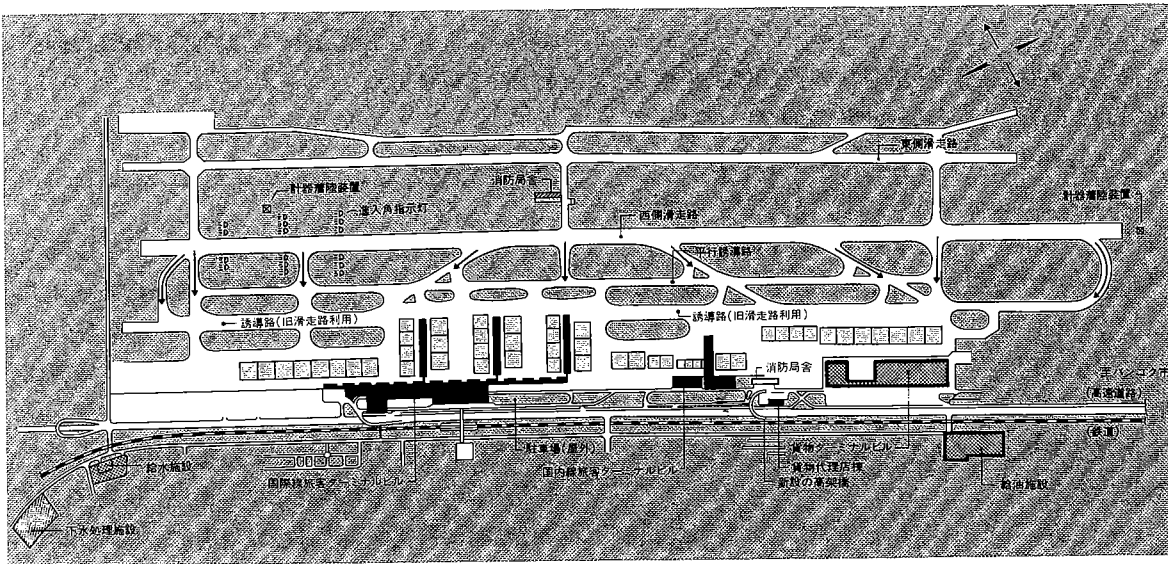
▲バンコク国際空港遠景
旅客数や貨物の増大によって、1989年の運行回数は11万回にも達しています。

■事業概要

| | 借款契約締結日 | 借 款 金 額 |
|--------------------|----------|-------------|
| バンコク国際空港拡張事業 (I) | 1979年10月 | 55億円 |
| バンコク国際空港拡張事業 (II) | 1980年12月 | 158億3,500万円 |
| バンコク国際空港拡張事業 (III) | 1982年6月 | 142億4,000万円 |

バンコク国際空港は1952年より運用が開始されましたが、旅客・貨物量の増大や飛行機の大型

化に伴い、諸施設の容量不足や滑走路の老朽化などが問題となりつつありました。本事業は、このような問題を改善するとともに、1997年に予測される航空需要への対応を目的として、拡張整備を行ったものです。具体的には、3,700mの滑走路の新設、旅客及び貨物ターミナルの新設・改修等を行い、OECSはこれらの事業に必要な建設費及びコンサルティング・サービス費用を供与しました。



■事業実施に係わる評価

本事業においては、実施段階において諸施設の仕様について変更が行われています。主要なものとしては、国際線ターミナルビルの形式をリニア式からピア式に変更したことが挙げられます。この変更に伴って、平行誘導路の新設を含む誘導路の配置の変更、駐機場拡張工事の一部追加、あるいは搭乗橋数を14ゲートから26ゲートに増やすなどの変更が行われています。これらの変更は、国際線旅客ターミナルビルを始めとした諸施設の規模を、計画目標年次の1997年に替えて、2000年以降の旅客需要に対応できるものにするとともに、搭乗橋を介してビルから直接乗降できる機数を増やし乗客の利便性の向上を図るために行われたものであり、適切なものと考えられます。

工期については、詳細設計の遅延が主因となって、工事の着工は遅れましたが、実際の工事は順調に進み、1989年3月に全工事が完工しました。特に、事業実施機関であるタイ空港公社が大規模で、かつ既存の空港を運用しながら実施するため

に、複雑な工程を伴う拡張事業であったにもかかわらず、飛行機の運行に支障を与えることなく完成させたことは高く評価されます。

■完成後の運用に係わる評価

完成後の運営維持管理についてもタイ空港公社が行っていますが、組織もしっかりと確立されており、完成後の諸施設の維持管理状況も良好です。

完成後の空港の運用状況は、各施設とも計画予測を上回る航空需要の伸びによって高い利用状況を示しています。以下は、バンコク国際空港における航空需要の現状です。

(1) 運行回数

過去9年間(1980年～1989年)の国際線の運航回数は年平均4.5%、国内線は年平均12.4%の伸びを示しており、1989年の総運航回数は計画(9.3万回)の1.3倍にあたる11.3万回となっています。なお、後述するように、旅客数・貨物数の伸びはこれを大きく上回っていることから、飛行機の大規模化の進んでいることがうかがえます。

バンコク国際空港

(2)旅客数

過去9年間の国際線旅客数の伸びは年平均10%（1987年以降は年15~20%の伸び）となっており、1989年には計画旅客数（約800万人）の1.2倍にあたる986万人に達しています。一方、国内線は年平均23%となっており1987年には計画旅客数（110万人）の2.7倍にあたる281万人に達しています。

ちなみに、1988年における本空港の国際旅客取扱数は全国の95.9%となっており、同国において重要な役割を果たしていると言えます。

(3)貨物量

過去9年間の国際線貨物量は、年平均13%（1984年以降の6年間では19%）の伸びを示しており、1989年には既に計画値（22.5万トン）の1.5倍にあたる34万トンに達しています。一方、国内線の貨物量は相対的に少ないものの、年平均25%と大きな伸びを示しており、1989年度には計画貨物量（1000トン）の8.3倍に達しています。

反映して、タイ空港公社の営業利益も順調な伸びを示しています。

■事業効果

タイでは、観光誘致年とされた1987年以降、観光にも重点を置いた政策が採用されていますが、本事業の開始以降、外国人旅行者数が急増（前年比1.2~1.6倍）し、それに伴う観光産業による外貨獲得額の向上（前年比1.3~1.6倍）などの実績から、本事業は観光産業の振興へも大きく寄与していると思われます。また、貨物ビルが整備され、貨物輸送の伸びに対応して高い利用状況にあることから、物流の改善を通じた経済発展への貢献など、顕著な事業効果が発現していると言えます。

（評価時期：1990年11月）

このようなバンコク国際空港の高い利用状況を

▼旅行者で賑わう国際線チェックインロビー
タイ全国の国際線旅客の9割以上がこの空港を利用し、1989年には986万人がこのロビーを利用しています。

